

情念の美学

風景に節が流れると、情景になる。

浪曲映画祭

第三回

2021 6.25 金曜日 → 29 火曜日
渋谷・ユーロライブ(ユーロスペース内)

浪曲師と曲師紹介

三笠優子

浪曲師 かみづき ゆうこ
愛媛県出身。幼少の頃より浪曲に親しみ、15才の時松平国太郎の内弟子となるが3年で浪曲から離れ博多に移り、クラブで歌い、その後RCAより「洞海湾の竜」デビュー。夫婦舟がミリオンセラーとなり、歌謡歴代ロングセラー5位となる。数年前より浪曲界に復帰、大会などに出演している。



玉川奈々福

浪曲師 たまがわ なななふく
神奈川県横浜市出身。1995年二代目玉川福太郎に曲師(浪曲三味線)として入門。2001年より浪曲師としても活動。2006年奈々福で名披露目さまざまな浪曲イベントをプロデュースする他、自作の新作や長編浪曲も手掛け、他ジャンルとの交流も多岐にわたっており、(社)日本浪曲協会理事、2018年度文化庁文化庁交流使として、中欧・中央アジア七か国で公演を行った。第11回伊丹十三賞受賞。



東家孝太郎

浪曲師 あずまや こうたろう
トウゴ共和国の倍音唱法「ホーメイ」や口琴などを用いた民俗音楽家としての活動を経た後、ホーメイと発声の酷似している浪曲に魅せられ、二代東家浦太郎の浪曲教室に通う。2011年正式に東家浦太郎一門に弟子入り。2015年季明け、浪曲の魅力は倍音にあり、との信条から「浅草倍音フズ」などを企画する。



玉川太福

浪曲師 たまがわ たいふく
新潟県新潟市出身。2007年二代目玉川福太郎に入門して太福を名乗る。同年11月、浅草木馬亭にて初舞台。2013年、浅草木馬亭にて名披露目。2015年、第一回渋谷らくご創作大賞、2017年、第72回文化庁芸術祭・大衆芸能部門、新人賞受賞。年間50公演を超える独演会を開催し、浪曲定席木馬亭をはじめ、落語の定席にも出演。古典の名作を継承する一方、さまざまな自作新作も手掛ける。



富士綾那

浪曲師 ふじ あやな
五代目東家三菜門下。2013年入門。勉強会を最低でも年に度はやらねばと思っている。推橋綾那(本名)として役者の活動も行う。最近の出演は「チェルフィッチュ」宮部純子(五反田)とのユニット「シガール姉妹」など。オアシスアリーナエス所属。



天中軒すみれ

浪曲師 てんちゅうけん すみれ
茅ヶ崎市出身。東京藝術大学音楽学部楽理科卒。在学中、邦楽や民俗芸能の世界に魅了される。はじめて生の浪曲を聴いた時「日本にはこんなに熱い語り物があったのか」と感動、浪曲師の道を志すことを決意。2018年4月2日、五代目天中軒雲月入門。同年12月5日、浅草木馬亭にて初舞台。



国本はる乃

浪曲師 くにもと はるの
「お前はピアノで顔より三味線つて顔だな」筑波市にいる父の友人の言葉がきっかけとなり九才で浪曲と出会う。太極の三味線が憧れます。お歌から、と騙され台北を買い半年で成田山新勝寺奉納演芸会にて初舞台。高校を卒業と同時に浪曲協会の門を叩き正式にプロとして活動開始。



木村勝千代

浪曲師 きむら かつちよ
11歳で初舞台。親の勤めて聴いた二葉百合子の歌謡浪曲岸壁の母に号泣。周囲の勤めて、関東節の最長老、木村松太郎入門。師匠譲りの芝浜の革財布(二鹿安太平記)の他、自作の新作は「まっ黒なおべん」として「原爆伝える浪曲師」と取り上げられる。四半世紀を経て、再び浪曲の舞台へ復帰。八回目。現在、唯一の木村派。



港家小そめ

浪曲師 みなとや こそめ
埼玉県さいたま市岩槻区出身。2013年7月、たまま主人の浅草木馬亭浪曲定席で初めて師匠五代目港家小柳の浪曲を聴き、衝撃を受け同年9月入門。2014年9月初舞台。2019年6月浅草木馬亭にて名披露目。



坂本頼光

活動写真真弁士 さかもと らいこう
1979年東京生まれ。中学2年頃より映画熱にとりつかれ、活動写真真弁士を志す。2000年『鞍馬天狗』前篇の説明でデビュー。以降、時代劇作品を中心に全国各地でライブを行い、現在までの説明作品は約120本。2010年にエール大ほか、米國5大学の公演に参加。アニメの声優やCMナレーションなどもこなす。2018年国立演芸場花形演芸大賞受賞。



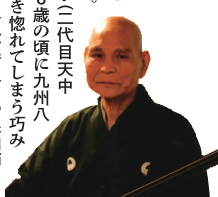
沢村豊子

曲師 さむら ほうこ
大牟田市出身。1948年、11歳で浪曲入り。山本艶子に師事、佃雪舟の曲師として全国を巡業。17歳で国友忠の浪曲教室に参加。以来国友忠の相三味線となり、主に放送浪曲で活躍。三波春夫、村田英雄などの曲師も務めたレジェンド。第42回松尾芸能賞功労賞受賞。



伊丹秀敏

曲師 いだま ひでとし
1935年佐賀県杵島郡生まれ。86才。浪曲師/曲師。1945年に伊丹秀子(二代目天中軒雲月)にあこがれて入門。初舞台は8歳の頃に九州八幡の黒崎劇場で「美しい声と誰も聞き惚れてしまう巧みな節遣いの名人であり、おそらく曲師史上一番沢山の浪曲師を弾いて来た名人」(祝85歳 伊丹秀敏記念公演こちら)。



玉川みね子

曲師 たまがわ みねこ
酒田市出身。二代目玉川福太郎との結婚を機に、1976年に山本太二に入門。1978年木馬亭で初舞台。以後は福太郎の弟子・玉川太福をはじめ多くの演者と共演、TV・ラジオにも出演している。



沢村美舟

曲師 さむら めいふね
1989年生れ。千葉県は佐倉市出身。義太夫から三味線に興味を持ち、木馬亭に通ううち浪花節に魅せられる。2015年に日本浪曲協会主催の三味線教室に通い、同年6月曲師沢村豊子に入門。翌年4月木馬亭にて初舞台。

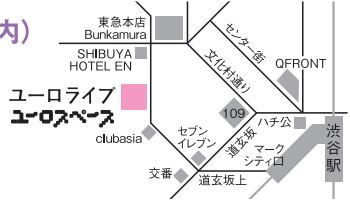


PLACE 会場

ユーロライブ(ユーロスペース内)

渋谷駅下車、Bunkamura前交差点左折
渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 2F/3F
問合せ:03-6675-5681/03-3461-0211

<http://eurolive.jp/>
<http://www.eurospace.co.jp/>



「浪曲映画—情念の美学2021」

主催:ユーロスペース 企画:ユーロスペース+シネマ5

企画監修:玉川奈々福

映画提供:国立映画アーカイブ、東映KADOKAWA、松竹、東宝、京都

おもちゃ映画ミュージア、SPOTTED PRODUCTIONS

協力:国立映画アーカイブ

ローカルツアー

「映画ミーツ浪曲2020」大分、深谷、高崎、松本、沖縄で開催

「映画ミーツ浪曲2019」大分、北九州、熊本、京都、大阪、神戸、横浜、深谷、高崎で開催

浪曲映画祭

情念の美学



浪曲中興の祖と言われる桃中軒雲右衛門の修行の物語。雲右衛門になる以前、東京で吉川繁吉を名乗っていたが、三河家梅車の一車に出ていたときに、梅車の妻で三味線弾きであったお浜と、駆け落ちをする。苦勞に苦勞を重ねた旅の果て、流れ流れて九州で、後援者を得て、桃中軒雲右衛門として旗揚げし、人気を得た雲は……。

25日(金)「桃中軒雲右衛門」上映後

二親に早く死に別れ、天涯孤独の浪太郎。浪花節になりたくて、怒涛軒鮫右衛門に入門したが、旅先で師匠に置いてきぼりにされた。しかたないから荷車を押して日銭を稼いでいたが、どうしても浪花節に戻りたい。初代木村重松がモデルの、浪花節修業の青春小説を奈々福が浪曲化。怒涛軒鮫右衛門のモデルが、雲右衛門である。



25日(金)「雲右衛門とその妻」上映後



長兵衛は町奴の親分ながらも剣術の稽古を怠らないう。難波七郎右衛門の営む一刀流剣術道場に通ううち、七郎右衛門の娘おきんが長兵衛にぞっこん惚れ込んでしまう。七郎右衛門は、長兵衛の親分にあたる伊勢屋清兵衛にこの事を相談し、なんとか二人の仲を取り持とうとするが、長兵衛は侠客には女房はいらない、と断ってしまう。これを聞いた長兵衛の子分とその女房達による大騒動の一席。

26日(金)「人生劇場 飛車角」上映後

天保年間、下総を縄張りにする笹川繁蔵、飯岡助五郎という侠客があった。助五郎は博打打ちの親分でありながら、十手も預かる二足の草鞋。互いに勢力を広げ、次第に縄張り争いが激化していく中、大飢饉に苦しむ下総の民を救うため、繁蔵は一世一代の花会(侠客同士の義理博打)を開催する。映画「国定忠治」と合わせてのご鑑賞がおすすです。



26日(土)「男の勝負一仁王の刺青」上映後

太平の世。近江国粟津藩。研屋上りの侍である森山辰次は、赤穂浪士の仇討を馬鹿にするが、忠義を旨とするほかの武士たちの怒りを買う。剣術の稽古の名目で家老から打ち握えられたのを恨みに思った辰次の企みにより、家老が命を落としたことで、辰次は、家老の息子兄弟に、親の仇と狙われることになる。



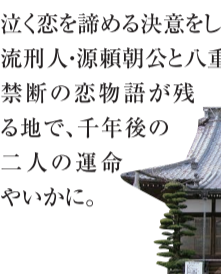
27日(日)「野田版 研辰の討たれ」上映後

時は大正時代半ば、旭は北海道。夫婦二人、子が一人。馬市の帰り、おでん屋で酷く酔っ払った夫に捨てられた妻子。その場に居合わせた牧師に助けられるが、どうしても夫に会いたい妻子。十八年、探し続けて居場所をつきとめるが、以前とすっかり変わってしまった夫。無事に名乗りを挙げて三人が再会できるのか。



27日(日)「SR サイタマのラッパー2」上映後

旅回りで伊東の地を訪れた新内流しの兄妹、清吉とお美乃。お美乃が酒の席で酔漢に絡まれているところを、青年大下新太郎が助けに入ったのをきっかけに、二人は恋に落ちる。だが、しがたない絵描きを自称していた新太郎が、実は実業家の跡取りと知った清吉。「身分違いの恋は結ばれない」と兄に諫められ、お美乃は泣く泣く恋を諦める決意をした。流刑人・源頼朝公と八重姫の禁断の恋物語が残る地で、千年後の二人の運命、やいかに。



27日(日)「SR サイタマのラッパー2」上映後

「おい、最近久蔵見た奴いるか?」「そう言えば見かけねえな」「俺も見てねえ」「真面目なアイツが休むなんてよっぽどだな」久蔵が二日も仕事を休んでいる事を知った親方は一家の処へ見舞いに行った。顔色も悪くいつもの覇気が全くない。こりや相当しているな…訳を聞いてみるとなんと恋煩いでふせていた。吉原夜桜見物で出会った花魁道中、一際目立った高尾太夫に一目惚れ。紺屋の職人と花魁の純愛ラブストーリー。



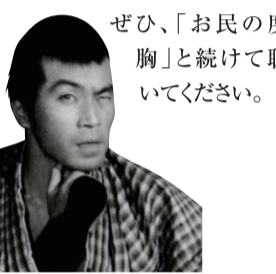
29日(日)「骨までしゃぶる」上映後

清水一家の子分、森の石松は、親分次郎長の代参濟ませ、清水港への帰り路、都鳥一家に百両の金を騙し取られた。この百両を返してもらおうとした石松は、都鳥一家のだまし討ちに合う。傷だらけの石松が逃げた先、頼った相手は、幼いころからの友達、小松村の七五郎。多勢に無勢は許せぬと、女房のお民と石松を匿うが。



29日(月)「虎造の荒神山」上映後

東海道一の親分・清水次郎長の乾分、森の石松。親分の代参で、讃岐・金比羅山へ御礼参りを済ませた石松は、今売り出しの身受山鎌太郎の宅へ。鎌太郎から次郎親分への百両という香典を預かった石松だが、その大金に目をつけたのが、都鳥三兄弟。古い馴染みと油断した石松は、都鳥は騙し討ち。ぜひ、「お民の度胸」と続けて聴いてください。



28日(月)「サラリーマン清水港」上映後

明治の頃のお話。南高輪のお屋敷前広場で、自転車の稽古をしていた竹田宮恒久王殿下。そこへ通りかかった大学生の松本は、自転車に乗れない殿下を見かねて、殿下とは知らぬまま、自転車を教えることに。自転車の稽古ですっかり仲良くなった二人だったが、ある時、殿下に家に遊びに来るように誘われて……。



29日(火)「絶唱浪曲ストーリー」後



80年代を代表する男たち ショーケン、ジュリーの共演。

長い間、フィルムの所在が不明になっていた鈴木清順・女の作品。昭和初期。芸者・小染と旅回り役者の順之助は深い仲になる。故あってそれぞれ追われる身の二人は、海を渡りサンフランシスコへと逃亡する。桃中軒雲右衛門に憧れていた順之助は、浪曲師・桃中軒海右衛門を名乗り、日系移民の慰問ツアーを計画するが挫折。やがて海右衛門は、シスコに勢力を伸ばしてきた暗黒街の帝王カボネと対峙することになる。

1985年/G.E.P.プロモーションズ/130分/D 監督:鈴木清順 脚本:大和屋三郎 出演:萩原健一、田中裕子、沢田研二、橋本明



成瀬巳喜男が描く芸道。雲右衛門の月形龍之介が絶品。

東京を追われて1年、九州で名を上げた桃中軒雲右衛門は、再び東京に打って出るべく、一門を引き連れて列車で東京に向かう。だが、過去にわだかまりを持つ雲右衛門は、静岡で途中下車し、姿を消すのだった…。芸のためにすべてを犠牲にし、「傷だらけの人間」を自認する雲右衛門の尊大な生き方を、成瀬巳喜男が容赦なく描き出す。雲右衛門を演じる月形龍之介が絶品。友人を演じる三島雅夫の好演も光る。

1936年/P.C.L/73分/F (提供:国立映画アーカイブ) 監督:成瀬巳喜男 出演:月形龍之介、細川ちか子、千葉早智子、藤原釜足、伊東薫、三島雅夫、市川右太衛門、小杉義男



雲右衛門の三波春夫とその妻の月岡夢路が好演。

自らの節を作り出そうとしていた浪花節語り師の繁吉(後の桃中軒雲右衛門)は、師匠の妻・お浜の三味線に惚れ込むが、二人の間係を怪しんだ師匠に咎められ、それをきっかけに二人は駆け落ちする。やがて小見山東天と出会い、その援護を得て九州で人気を博した繁吉は、再び東京に打って出るが、その頃、お浜は重い病の床にあった…。元浪曲師・南條文若(なんじょうふみわか)＝三波春夫が雲右衛門の好演も光る。

1962年/大映/88分/F 監督:安田公義 脚本:辻久一 出演:三波春夫、月岡夢路、浦路洋子、石黒達也、山路義人、稲葉義男、三波豊和



大正時代の浪曲歌謡を映画化した時代劇の東映から任侠の東映へ

大正時代。一宿一飯の恩義から敵の親分を殺した5年の刑に服すことになった飛車角は、愛妻に残したおとよのことだけを想っていた。おとよは車夫の官川に惚れられるが、実は官川が飛車角の弟分であることが後にわかる。おとよと官川が苦闘する中、刑期を終えて出所した飛車角は吉良常に事実を知らされるが…。村田英雄の「人生劇場」を主題歌に、「男になる」とは何かを描き、東映任侠路線の魁となった傑作。

1963年/東映/94分/D 監督:沢島忠 原作:尾崎士郎 出演:鶴田浩二、佐久間良子、月形龍之介、高倉健、水島道太郎、村田英雄



末木亭の浅草を舞台に 村田英雄が、高倉健が暴れる

舞台は大正15年の、芝居や演芸で賑わう浅草の興行街。父親の自殺によって二代目興行師となった青年・信太郎(高倉健)は、堅気の道歩もうとするものの、対立する興行師からの度重なる横槍を受けることに…。村田英雄が、信太郎の幼穉な魅力と人気が浪曲師・桜井梅芳を演じ、劇中「赤穂義士の討ち入り」を詠む。横暴にじっと耐えた信太郎がついに出入りに向かう浪曲がオーバーラップするクライマックスが見事。

1966年/東映/93分/F 監督:マキノ雅弘 脚本:野上龍雄、笠原和夫 出演:高倉健、藤村トシ、藤山寛美、島田正吾、長門裕之、水島道太郎、村田英雄



村田英雄が浪曲師を演じる 東映任侠映画の王道

村田英雄が主演する「男の勝負」シリーズの第二作を任されたのは、1965年にデビューした新鋭・鈴木則文だった。すでに「明治侠客伝 三代目襲名」(加藤泰)など任侠映画の脚本を手掛けていた鈴木は、ここから任侠映画でキャリアを積み重ねてゆく。浪曲師・菊池政五郎の、背中に彫った仁王の刺青に立てた誓いが、男たちの義侠心を呼び覚ます。耐えに耐え、最後に怒りを爆発させる任侠映画の王道を往く作品。

1967年/東映/88分/F 監督:鈴木則文 脚本:村尾昭、高田宏治 出演:村田英雄、天知茂、北島三郎、藤純子、天津敏、名和宏



浪曲「紺屋高尾」から始まる 小津安二郎の下町人情喜劇「出来ごころ」

東京の下町を舞台にした小津の「喜八もの」の第1作。冒頭は夏の夜の浪曲会で町内の人々々が「紺屋高尾」に聞き入っている場面。男やめめ喜八は息子の富坊と浪曲会への帰り道に、身寄りのない娘・春江に出会う。一目惚れした喜八は毎日入り浸る。1933年/松竹/100分・無声/F 監督:小津安二郎 出演:坂本武

1925年/東宝キネマ/33分・無声/D (提供:京都おもちゃミュージアム) 監督:牧野省三



野田秀樹が新しい視点で書き直し、演出した歌舞伎。

赤穂浪士討ち入りのニュースはここ近江の国にも伝えられ、剣術道場はその話題で持ち上がり。だが一人、赤穂浪士を馬鹿にする人物が。研屋あがりの守山辰次。仇討ちなんて馬鹿馬鹿しいと言いつつ辰次は、家老が叩きつける。すると逃げ目ない辰次は態度を変え、家老に剣術を学びたいとお道徳を言う。主君の奥方、萩の江の前で、家老に散々に打ち握えられて、辰次は返返し一計を案じるが…。2005年上演/歌舞伎座/95分/D 原作:木村錦花、脚本:野田秀樹、演出:18代中村勘三郎、中村扇雀、松本幸四郎、中村勘九郎

2010年/テ・ジョイ/95分/F 監督:脚本:入江悠 出演:山田真歩、安藤サクラ、桜井ふみ、増田久美子、水澤紳吾、若松了



今度は、サイタマと群馬のラッパーが激突!

入江悠「サイタマラッパー」シリーズ第2作。群馬の山奥を舞台に、女子ラッパーたちを描いた青春映画。高校卒業後、群馬の実家で家業の手伝いをするアユムは、退屈な日々を送っていたが、ある日、高校時代に結成した女子ラッパーユニット「B-hack」の仲間のミツと再会し、一夜限りのライブを計画する。金策に走るが、世の中は甘くない。果たして彼女たちは、みじめな現実を、ラップ魂で跳ね返せるのか。2010年/テ・ジョイ/95分/F 監督:脚本:入江悠 出演:山田真歩、安藤サクラ、桜井ふみ、増田久美子、水澤紳吾、若松了

2010年/テ・ジョイ/95分/F 監督:脚本:入江悠 出演:山田真歩、安藤サクラ、桜井ふみ、増田久美子、水澤紳吾、若松了



加藤泰が描く 痛快女性アクション映画

明治33年。貧農の娘・お絹は18歳で廓に売られる。やがて売れっ子になったお絹は、決して抜かれない廓のしきたりに疑問を抱くようになるが、そんな頃、純朴な職人の甚五郎が客として現れる…。遊女と客の純愛を軸に、二人が清々しい自由を手に入れるまでを描いた爽快な傑作。社会の底辺に生きる人間を泥の中で生まれ育ち美しく咲き誇るハスの花」として描く加藤泰の映画には、浪曲と同じ血が流れている。1966年/東映/88分/F(ニュープリント) 監督:加藤泰 脚本:佐治純 出演:桜明弘子、夏八木勲、久保菜穂子、宮園純子、三島雅夫、菅井きん

1966年/東映/88分/F(ニュープリント) 監督:加藤泰 脚本:佐治純 出演:桜明弘子、夏八木勲、久保菜穂子、宮園純子、三島雅夫、菅井きん



金毘羅様への奉納の旅、森の石松の恋と死。

お蝶と豚松の葬儀に参列した見受山鎌太郎の香典が5両だったのを、石松は恥をかかずまいと25兩と張り出す。葬儀の後、石松は金毘羅さまへ奉納する代参することになるが、帰りに色街で遊女・夕顔に出会い恋に落ちる。その後、鎌太郎を訪ね、鎌太郎は夕顔を見受けて石松の嫁にすることを約束する…。浪曲では「三十石船」へとつながる物語を、マキノがオリジナルの「石松恋愛譚」につくりあげた。1954年/東宝/103分/F(ニュープリント) 監督:マキノ雅弘 出演:森繁久彌、志村喬、川合玉江、轟夕起歌、小泉博、小堀明男、河津清三郎、岡崎潤、広沢虎造

1954年/東宝/103分/F(ニュープリント) 監督:マキノ雅弘 出演:森繁久彌、志村喬、川合玉江、轟夕起歌、小泉博、小堀明男、河津清三郎、岡崎潤、広沢虎造



自ら浪曲化して大ヒット、ご存知「東海道遊侠伝」の一席。

江戸末期の慶応2年(1866年)。伊勢・鈴鹿の荒神山(こうじんやま)で、伊勢の神戸長吉(かんべのながきち)と桑名の安濃徳次郎(あのおとくじろう)の縄張り争いが起る。長吉の義兄弟・三州吉良(現・愛知県西尾市)の仁吉は、敵対する徳次郎の妹である女房・お菊を離縁して、清水一家と荒神山に乗り込む…。三代目神田伯山が講談にし、さらに広沢虎造が浪曲にして、広く知られることになった物語。1940年/東映/67分/F (提供:国立映画アーカイブ) 監督:青柳信雄 脚本:八住利雄 出演:黒川彌太郎、山根壽子、下田猛、高堂國典、進藤英太郎、美ち奴、広沢虎造

1940年/東映/67分/F (提供:国立映画アーカイブ) 監督:青柳信雄 脚本:八住利雄 出演:黒川彌太郎、山根壽子、下田猛、高堂國典、進藤英太郎、美ち奴、広沢虎造



東西美の豪華メンバーの とんでもハッピーな傑作喜劇

加藤泰の劇場第二作のドタバタ喜劇。「清水港にやぐざ大学あり」。男を上げよう次郎郎の下にやって来た、江戸の若旦那小六。青嵐の小六は、森の石松と吉良の仁吉が恋のさやあてをしている茶屋の娘・お豊に惚れるが、そこへ江戸から許嫁のお澄がやって来る。皆して小六を江戸へ帰そうとするが、小六は次郎郎と敵対する黒駒の陰謀を知って、男を売るのはこの時とばかりに立ちあがるのだった…。1952年/東映/78分/F (提供:国立映画アーカイブ) 監督:加藤泰 出演:大泉滉、沢村国太郎、原健策、加東大介、広沢虎造、林田十郎、声の楽屋五、桂春団治、山茶花究

1952年/東映/78分/F (提供:国立映画アーカイブ) 監督:加藤泰 出演:大泉滉、沢村国太郎、原健策、加東大介、広沢虎造、林田十郎、声の楽屋五、桂春団治、山茶花究



富士と並んで日本一! 東宝サラリーマン喜劇決定版!

東宝の喜劇「社長シリーズ」の第12作目。清水次郎長伝をサラリーマンものに翻案した正統二部作の正篇。酒造会社「清水屋」には、社長の長五郎(森繁)以下、社長夫人の蝶子(久慈あさみ)、大征専務(加東大介)、小政工場長(三木のり平)、石井松太郎課長(小林桂樹)らが勢揃い。香港のバイヤー、邱六漢(フランキー)に焼酎を売り込み、四国に芋の買い付けに出かけるが、「黒駒造」が妨害して…。1962年/東宝/92分/F(ニュープリント) 監督:松林忠恵 脚本:笠原良三 出演:森繁久彌、小林桂樹、加東大介、久慈あさみ、三木のり平、フランキー堺、新珠三千代

1962年/東宝/92分/F(ニュープリント) 監督:松林忠恵 脚本:笠原良三 出演:森繁久彌、小林桂樹、加東大介、久慈あさみ、三木のり平、フランキー堺、新珠三千代



旅で知り続けた40年後に 辿り着いた浅草馬車亭。

芸歴70年のベテラン浪曲師・港家小柳が、2014年に東京浅草で開いた初の独演会に密着。日本の話芸の真髄に迫る。監督は、映像作家として数々のドキュメンタリー、芸術家とのコラボレーションなどを手がける川上アチカ。2014年、浅草馬車亭。芸歴70年の天才浪曲師・港家小柳が、力士と芸者の友情物語を熱演。即興で生み出されるベテラン曲師・沢村豊子との掛け合い、豊かな演技力、凄まじい集約力が、聴衆を引き込んでいく。2015年/SAIDA FILM/33分/D 監督:川上アチカ 出演:港家小柳 沢村豊子

2015年/SAIDA FILM/33分/D 監督:川上アチカ 出演:港家小柳 沢村豊子



港家小柳 INTUNE

29日(火) 18:00

映画ミーツ浪曲——浪曲映画——の再発見

1929年、映画は無声からトーキーになったことで、演出の大転換を迫られる。多くの時代劇は人形浄瑠璃や歌舞伎のように、義太夫が節と語りて物語を回す日本の伝統的な演劇形式を踏襲、義太夫に代わる役割を浪曲や琵琶語りに託した映画—浪曲トーキー、琵琶トーキーなるものが登場する。

1928年のラジオの全国放送化、SPレコードの本格普及で大ブレイクした寿々木米若の浪曲「佐渡情話」に目を付けた日活が浪曲「佐渡情話」（1934年）を映画化して大成功を収めると、それを契機に各社はあたかも今日の映画界がベストセラー小説やマンガを映画化するように、浪曲口演付きや浪曲・講談演目を脚本とした映画を次々と製作。マキノ雅弘の『次郎長三国志』を頂点として、山中貞雄、成瀬巳喜男、中川信夫、森一生、斎藤寅次郎、三隅研次、加藤泰らも含め、その傾向はTVの登場で急速に人氣が衰える1950年代まで続いた。

浪曲は大衆芸能の王者として終戦後まで君臨するが、浪曲の物語に通底する義理人情、通俗的で情緒的な価値観は、近代的自我を目指した知識人、夏目漱石、芥川龍之介、永井荷風らに忌み嫌われ、文芸の世界では「浪花節」という言葉が否定的なレッテルとして最近まで頻繁に使われていた。

しかし、従軍画家を務めたことで戦争協力を問い詰められ、フランスから終生帰国することのなかった藤田嗣治がテープレコーダーに声で残した遺言のなかで、しばしば浪曲の節に乗せて語るほどに、浪曲は日本人に浸み込んでいた。

浪曲師・国友忠が「二葉百合子、三波春夫、村田英雄という人たちは、浪曲の自在性を生かし、それぞれ見事に独自の節調を作り上げて成功した、現代の浪曲家だ」と書いているように、浪曲は変容しつつも日本人のDNAを受け継いできた。この特集企画は、いわば私たちのDNAを探り当てる旅でもある。

注記	会場は全てユーロライブとなります
 浪曲	公演は「映画+浪曲」か「映画」の2種類です（各回入替）。浪曲だけの観覧はできません。また、全席指定制ですので予約はお早めに！
 映画	

5月8日(土) 13時より販売開始

 ①映画+浪曲／活弁のみ	一般2,400円／学生・会員2,000円／高校生1,200円
 ②映画のみの回	一般1,400円／学生・会員1,200円／高校生800円
 回数券（一般のみ）	10,000円（1,000円券10枚綴り）
	同伴者との共通使用可。ユーロスペース窓口のみにて、6月1日より発売。①は1,000円券2枚、②は1,000円券1枚で入場できます。その際、座席指定券との引換えが必要です。

●学生・会員料金の方は、要証明書提示●浪曲だけの観覧はできません●特別興行につき、シニア料金はありません

◎オンライン・チケット http://www.eurospace.co.jp/

●各種クレジットカードでのみご購入いただけます●ご鑑賞前に劇場ロビーにある専用発売機でチケットをお受け取りください。発売機が混雑する場合があります。早めのご来場をお勧めします。

6.25

金曜日

11:00	
12:00	
13:00	 12:40 1 カボネ大いに泣く 開演 監督＝鈴木清順 出演＝萩原健一、沢田研二、田中裕子
14:00	14:50 終了
15:00	
16:00	 15:20 2 桃中軒雲右衛門 開演 監督＝成瀬巳喜男 原作＝真山青果 出演＝月形龍之介、細川ちか子
17:00	 1 晴れ晴れ雲 浪曲＝三笠優子 曲師＝伊丹秀敏
18:00	 17:30～ 対談「桃中軒雲右衛門って？」 ※1 玉川奈々福 聞き手＝田井肇
19:00	 18:20 3 雲右衛門とその妻 開演 監督＝安田公義 原作＝谷屋充 出演＝三波春夫、月丘夢路
20:00	 2 浪花節更紗 浪曲＝玉川奈々福 曲師＝沢村豊子
21:00	

※1 15:30または18:20の回の入場券が必要です（席は先回優先）

Aプログラム

浪曲師伝説——現在の型を作った桃中軒雲右衛門

浪曲における「中興の祖」と言われる桃中軒雲右衛門は、1873年（明治6年）に、群馬県高崎市に生まれた。浪花節は、明治時代に入って認知されるようになった芸能だが、出自が大道芸だったこともあって、落語や講談に比べ低いものと見なされていた。その浪曲の地位を高め、かつ現在の口演スタイルを確立したのが桃中軒雲右衛門である。雲右衛門は、吉川繁吉の名で東京に出て浪花節語りとして寄席にあがったが、浪曲師・三河家梅車の妻で曲師を務めていたお浜と恋仲となり、駆け落ちして東京を去る。その後、桃中軒雲右衛門の名で「赤穂義士伝」を持ちネタとして九州で人気を博し、その成功の余勢を買って再び東京に戻って頂点を極めた。今回上映する2本は、破天荒な人生を歩んだ孤高の天才を、まったく異なるアプローチで描いているが、いずれも俳優自身（月形龍之介、三波春夫）による浪曲が素晴らしいことが特筆される。

6.26

土曜日

11:00	 4 人生劇場 飛車角 開演 監督＝沢島忠 出演＝鶴田浩二、高倉健、佐久間良子、村田英雄
13:20	終了
13:40	 5 日本侠客伝 雷門の決斗 開演 監督＝マキノ雅弘 出演＝高倉健、藤純子、村田英雄
15:19	終了
15:30～	 「村田英雄と東映任侠映画」 ※2 解説＝山根貞男
16:20	 6 男の勝負—仁王の刺青 開演 監督＝鈴木則文 出演＝村田英雄、天知茂、北島三郎、藤純子
18:30	終了
18:50	 7-1 出来ごころ ★弁士付き上映 開演 監督＝小津安二郎 出演＝坂本武 弁士＝坂本頼光
	 7-2 国定忠治 監督＝牧野省三 出演＝澤田正二郎
21:12	終了

※2 13:40または16:20の回の入場券が必要です（席は先回優先）

Bプログラム

浪曲師・村田英雄 東映時代劇を任侠路線に変えた男

1951年に東急から独立して出発した東映は、片岡千恵蔵と市川歌右衛門を“両御大”とする“勸善懲悪の時代劇”路線で隆盛を極める。しかし黒沢明のリアルなアクション時代劇の登場もあり、観客の時代劇を見る目の変化、殺陣の時代劇は飽きられて苦戦が続いた。そんななか当時東映撮影所にいた岡田茂が、村田英雄の浪曲歌謡「人生劇場」の記録的な大ヒットに目をつけ、尾崎士郎の小説「人生劇場・残侠篇」の任侠の話に絞り、鶴田浩二、高倉健ともに村田英雄も出演させ、1963年に「人生劇場 飛車角」を製作、その成功が“東映任侠路線”のシリーズ化をもたらす。鶴田、高倉に続いて、“緋牡丹のお竜”こと藤純子が登場、それにも陰りがみえた1973年、菅原文太主演の「仁義なき戦い」が大ヒット、その後の実録路線へと継承される。描き方は変わっても、20年以上東映を支えた任侠の義理人情の美学こそが、浪曲師・村田英雄が映画界にもたらしたものだった。

6.27

日曜日

11:30	 8 松竹シネマ歌舞伎 野田版 研辰の討たれ 開演 出演＝18代中村勘三郎、中村扇雀、松本幸四郎、中村勘九郎
13:55	終了
14:20	 9 SR サイタマノラッパー2 ～女子ラッパー☆傷だらけのライム 開演 監督＝脚本＝入江悠 出演＝山田真央、安藤サクラ、桜井ふみ
17:00	終了
17:10～	 鼎談「関東若手浪曲師集合！」 ※3 富士鏡那×天中軒すみれ×国本はる乃 司会＝入江悠
18:10	 10 骨までしゃぶる 開演 監督＝加藤泰 脚本＝佐治乾 出演＝桜町弘子、久保菜穂子、夏八木勲
20:20	終了

※3 14:20または18:10の回の入場券が必要です（席は先回優先）

Cプログラム

浪曲の未来——江戸の若き俊才たち

数十年ぶりの講談旋風を一人で巻き起こし、神田伯山の名跡を継いだ神田松之丞が、かつて多用していた「講談は絶滅危惧種」というコピー。それは浪曲にも当てはまると思われていた。だが、伯山ブームに沸きわりには弟子が集まらない講談界に比べ、浪曲界にはここ数十年は稀だった若い入門者が次々と門を叩く。昨年、そのうちのまだ大谷翔平世代で、すでに実力もある真山隼人、京山幸太のお二人を、関西からお呼びした。そして今年は関東の若手三人、うち二人もまだ20代、加えて演劇との二足の草鞋を履く浪曲師にもご登場いただく。逆三角形の年令構成の浪曲界にあって、これは事件だ。危機が叫ばれ続けたこの世界で、すでに風格すら感じさせる実力者、また大衆芸能には必須のケレン味を備えた、また確かな才能を感じさせる若手たちが一気に出現した驚きと、彼らの成長を見届ける幸運に胸騒ぎを覚えることになるだろう。

6.28

月曜日

12:00	 11 次郎長三国志第八部 海道一の暴れん坊 開演 監督＝マキノ雅弘 出演＝森繁久彌、志村喬、越路吹雪、広沢虎造
13:43	終了
14:10	 12 虎造の荒神山 開演 監督＝青柳信雄 脚本＝八住利雄 出演＝黒川彌太郎、山根壽子、下田猛
16:00	終了
16:20	 13 清水港は鬼より怖い 開演 監督＝加藤泰 出演＝大泉滉、沢村国太郎、原健作、広沢虎造
17:48	終了
18:15	 14 サラリーマン清水港 開演 監督＝松林宗恵 脚本＝笠原良三 出演＝森繁久彌、小林桂樹、加東大介
20:30	終了

Dプログラム

浪曲演目録——ご存知「清水次郎長伝」

戦後のラジオ放送によって全国を席卷した浪曲ブームの中で、誰もが知っていたのが、へ旅ゆけば、駿河の道に茶の香り…で始まる二代目沢広虎造の「清水次郎長伝」であった。全国津々浦々の銭湯の壁に富士山が描かれていたのは、湯船につかりへ旅ゆけば…を唸るためであったとさえ言われているほどだ。清水次郎長は本名・山本長五郎。1820年の生まれで去年が生誕200年にあたる、現在の静岡市清水区を縄張りにした侠客である。「清水次郎長伝」は、「海道一の大親分」次郎長と、大政、小政、法印大五郎、増川仙右衛門、大瀬半五郎、追分三五郎、そして森石松といった、個性的な子分たちの活躍を描いた大長編である。「清水次郎長伝」の映画は、浪曲人氣にあやかって、戦後、虎造が亡くなる1964年までの20年弱の間に、実に膨大な数がつくられた。最近では、人気漫画「ONE PIECE」の尾田栄一郎が大の「次郎長三国志」ファンであることが知られている。

6.29

火曜日

13:20	 1 カボネ大いに泣く 開演 監督＝鈴木清順 出演＝萩原健一、沢田研二、田中裕子
15:30	終了
16:00	 4 人生劇場 飛車角 開演 監督＝沢島忠 出演＝鶴田浩二、高倉健、佐久間良子、村田英雄
17:35	終了
18:00	 15 港家小柳IN-TUNE 開演 監督＝川上アチカ
20:20	終了

映像+トークライブ「絶唱浪曲ストーリー」川上アチカ監督×港家小そめ

Eプログラム

浪曲の現在——浪曲師・曲師のドキュメンタリー

浪曲映画祭は1年目に「噂の玉川奈々福 キネマ更紗」を、昨年は「浪曲師になってしまった——浅草木馬亭の浪曲師たち」を上映、今年は川上アチカ監督の「港家小柳IN-TUNE」と、制作中の「絶唱浪曲ストーリー」という、いずれも浪曲師および曲師のドキュメンタリー映画を上映する。いま苦境の伝統芸能に、なぜドキュメンタリー映画を撮ろうとする人が、毎年現れるのか、そこに浪曲の魅力を見ることができる。初めて浪曲に触れたときの震えるような感動を、人々に直接伝えたくて、ドラマではなく迷わずドキュメンタリーという形式を、彼らはまず選ぶ。それは同じ話芸の講談や落語とは異なり、音楽を伴うことで、知性より先に魂に響く芸だからだ。近代的自我の確立が求められていた明治・大正期の著名な文学者たちに、浪曲が毛嫌いされた理由もそのあたりにありそうだ。浪曲が密着取材を頼みやすい、敷居の低い大衆芸能であることも示している。

※浪曲口演は約30分 ※対談等を観覧いただくには、前後いずれかの入場券が必要です。整理の都合上直前のプログラムのお客様を優先しますので、直後のプログラムのお客様は空いている席にお座りください。